



学校教育目標

自分と相手を大切にし、
考えて行動する名瀬っ子

名瀬小だより

10月号

令和8年9月30日
横浜市立名瀬小学校
校長 宮崎 博隆

「本当の楽しさ」の一滴^{ひとしずく}

校長 宮崎 博隆

朝夕の心地よい風に秋の深まりを感じる季節となりました。校庭を走る子どもたちの声にもどこか落ち着きを感じられ、日々の確かな成長を感じております。

10月9日には前期終業式（期分け式）を迎え、13日からは後期がスタートします。毎日コツコツと「凡事徹底」を重ねる日々の取り組みは、いわば同じ色、同じ味の丁寧な「しずく」となって、子どもたちの「心の泉」を静かに満たしてきました。前期の節目に当たり、自分や友達の確かな歩みを認め合い、新たな目標に向かって一步を踏み出す大切な機会としたいと考えています。

さて、後期が始まるとすぐに、子どもたちが待ちに待った大きな体験の機会が訪れます。4・5年生は合同で「上郷宿泊体験学習」（14・15日）へ、6年生は「日光修学旅行」（19・20日）へと出発します。実行委員を中心に仲間と協力しながら準備を進めるこの特別な体験を通して落ちる一滴は、その時その場所でしか味わえない鮮やかな色と豊かな風味がついています。本物の歴史や大自然に直接触れたときの感動、そして仲間と励まし合いやり遂げた達成感という「特別な一滴」がぽつんと心の泉に落ちたとき、そこには行く前とはあきらかに違う、深みと輝きをたたえた「本当の楽しさ」という味わいが広がっていきます。現地で自分なりの楽しさを発見し、より一層豊かに満ちた心の泉をたずさえて帰ってくる子どもたちの姿を今から楽しみにしています。

また、1～3年生の子どもたちにとっても、秋から冬にかけて名瀬の豊かな里山に出かけたり、まちや地域の人々と直接ふれあったりしながら行う探究的な学びが広がっていきます。身近な「名瀬の財（たから）」と出会う中で、子どもたちの知的好奇心と郷土を愛する心を豊かに育てまいります。

こうした豊かな学びの場を創り出せるのは、日頃から温かく見守ってくださる保護者や地域の皆様の支え、そして子どもたちに寄り添い熱意をもって準備を進める教職員の尽力があってこそです。子どもたちの安全と充実した学びを支えるためにも、教職員自身の笑顔とゆとりを大切にしながら取り組んでまいります。

後期も「自分と相手を大切にし、考えて行動する名瀬っ子」の育成を目指し、学校・ご家庭・地域がチームとなって歩んでまいります。これからも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。